

# 2016年(平成28年)3月期 決算説明会

長瀬産業株式会社  
2016年5月27日

Copyright © 2016 NAGASE & CO., LTD.

## 目次

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 1. 2016年3月期 決算概況              | P. 3  |
| 2. 2017年3月期 業績見通し             | P. 14 |
| 3. 新中期経営計画「 <b>ACE-2020</b> 」 | P. 20 |
| 4. (参考資料)セグメント別概況             | P. 33 |

## 2016年3月期 決算概況

### 連結損益計算書

- 売上高：生活関連セグメントの売上は増加したものの、電子および機能素材セグメントが減少し、減収
- 経常利益：持分法投資損益および為替差損益の悪化等により減益
- 親会社株主に帰属する当期純利益：のれんおよび事業用資産に係る減損損失を計上したものの連結納税制度の適用に伴う税金費用の減少により増益

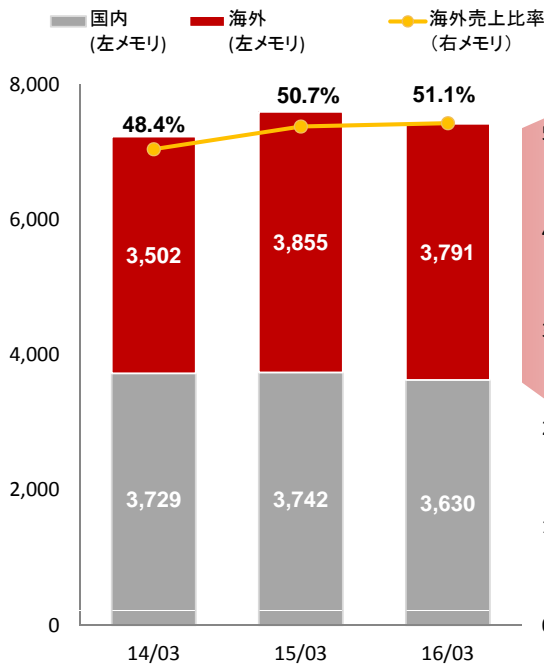
(単位:億円)

	15/03	16/03	増減額	前期比	公表見通し	達成率
売上高	7,597	7,421	△175	98%	8,230	90%
売上総利益	919	916	△3	100%	973	94%
<利益率>	12.1%	12.4	+0.2%	—	11.8%	—
販売費及び一般管理費	738	736	△1	100%	778	—
営業利益	181	180	△1	99%	195	92%
経常利益	203	183	△19	90%	206	89%
親会社株主に帰属する当期純利益	113	123	+9	109%	121	102%
US\$レート (期中平均)	@109.9	@120.1	@10.2 円安		@120	—

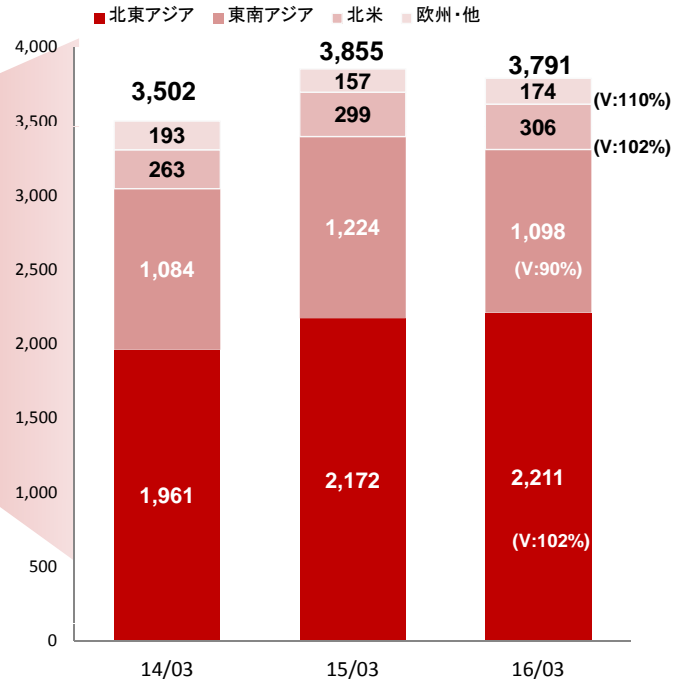
【為替変動による16/03期実績売上高および営業利益への影響額】  
 売上高: 約+226億円      営業利益: 約+6.7億円

■海外は、東南アジアを除く地域において増収となったものの、東南アジア向け電子関連ビジネスが減少し、全体で減収

### 国内・海外売上高(億円、%)



### 海外売上高の地域別内訳(億円、%)

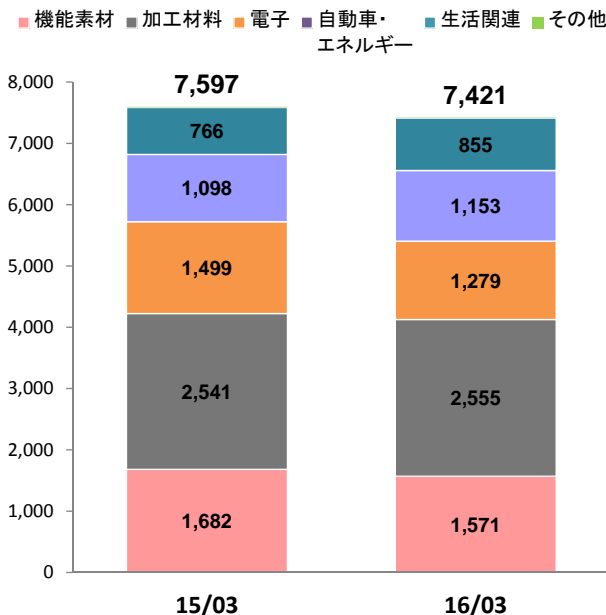


※V:前年比

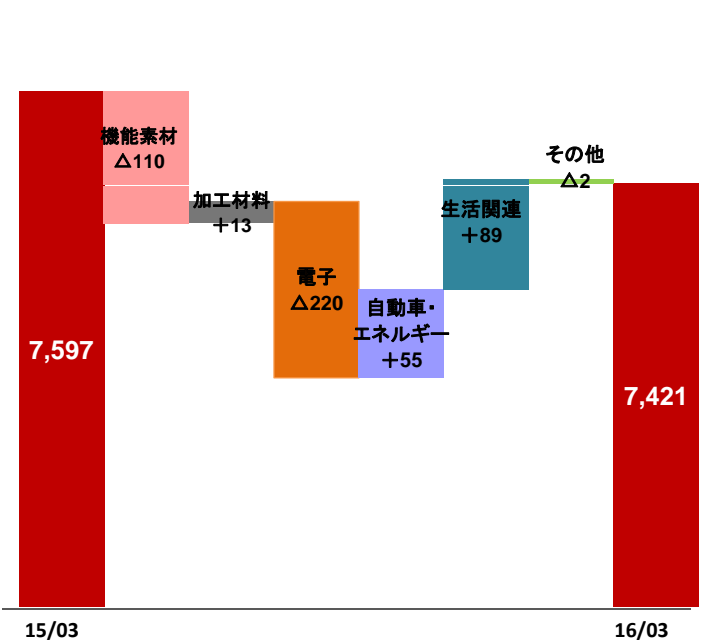
# セグメント別売上高2期比較

- 機能素材：国内において自動車生産台数の減少や住宅関連の低迷を受けて塗料原料およびウレタン原料等の売上が減少
- 電子：スマートフォン市場の低迷の影響等により液晶関連部材の売上が減少
- 生活関連：林原製品、スキンケア・トイレタリー業界向け原料等の売上が増加

### セグメント別 売上高(億円)



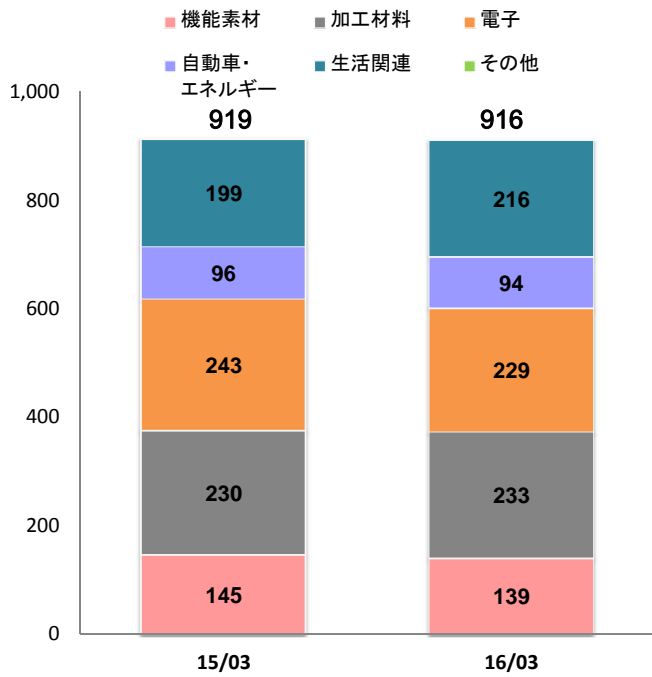
### セグメント別 売上高増減(億円)



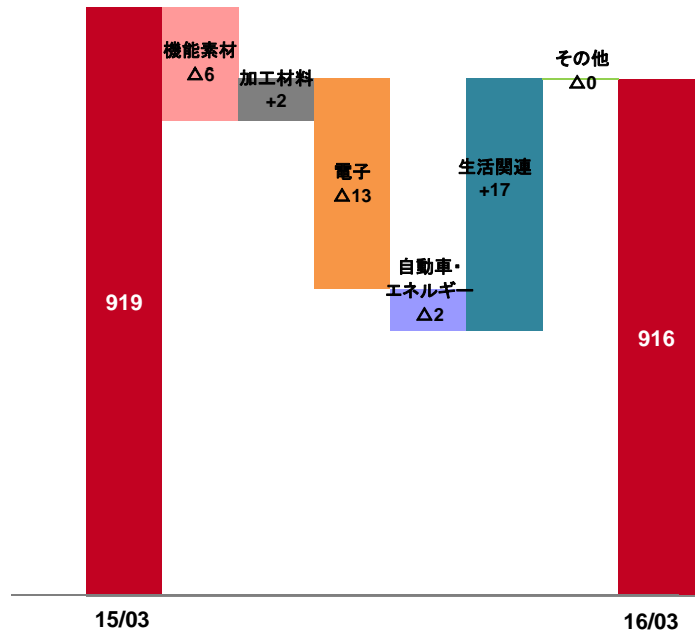
# セグメント別売上総利益2期比較

■主に国内における売上高の減少により減益

セグメント別 売上総利益(億円)



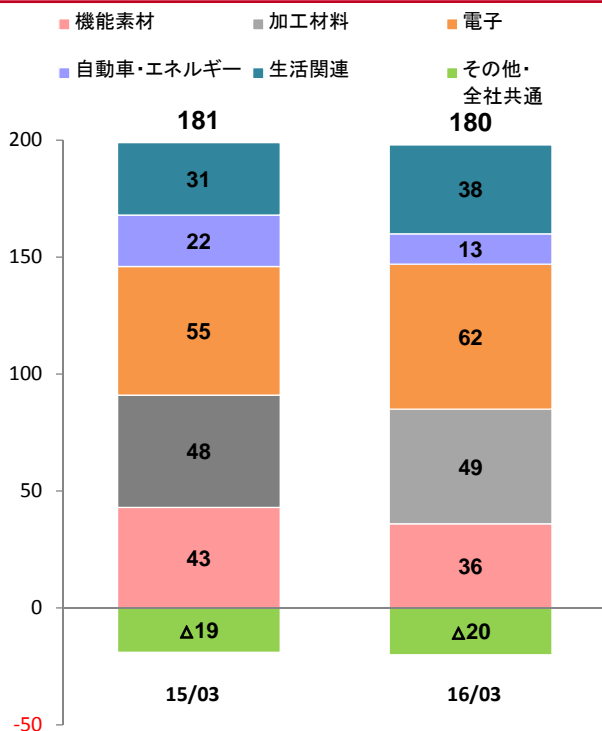
セグメント別 売上総利益増減(億円)



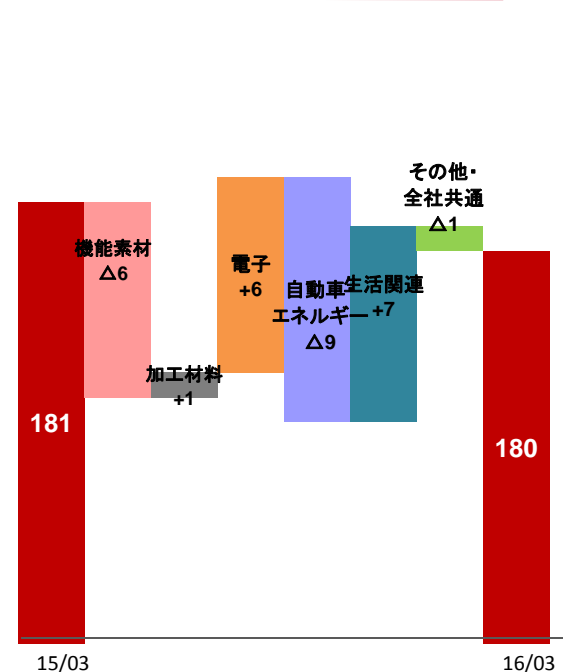
# セグメント別営業利益2期比較

■電子：前連結会計年度に台湾子会社にて貸倒引当金を計上した影響等から増益  
 ■自動車・エネルギー：国内新規ビジネス立ち上げ時の費用負担発生等により減益

セグメント別 営業利益(億円)



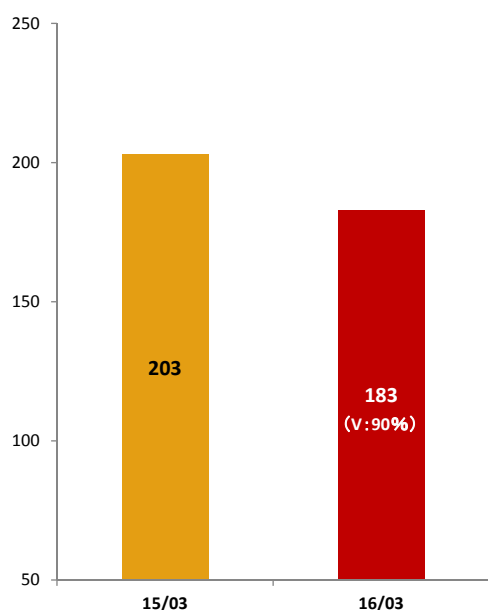
セグメント別 営業利益増減(億円)



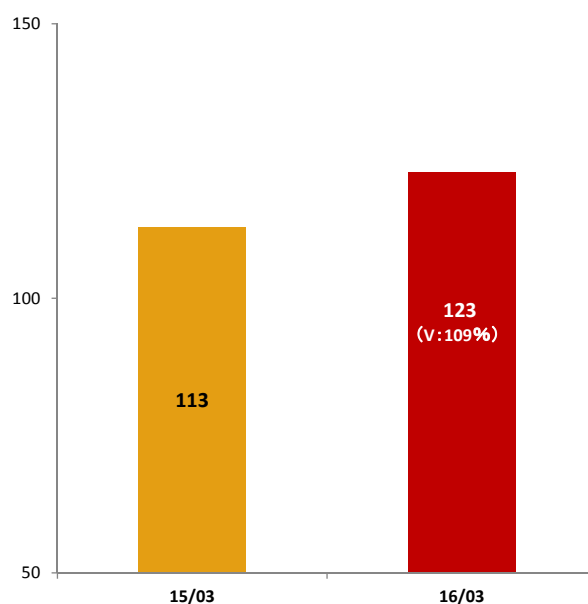
## 経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益2期比較

■2017年3月期より、連結納税制度を適用することに伴う税金費用の減少等により親会社株主に帰属する当期純利益は増益

経常利益（億円）



親会社株主に帰属する当期純利益（億円）



※V:前期比

## 主な連結子会社の業績

■林原は、食品業界向けに国内外でトレハ®、スキンケア業界向けにAA2G®の販売が好調に推移し、売上は増加したものの、新工場稼働に伴う減価償却費の増加等により利益は減少

(単位:億円)

社名		売上高	前期比	営業利益	前期比
単体	長瀬産業	4,256	94%	32	70%
製造会社	林原	241	102%	45	94%
	ナガセケムテックス	237	90%	18	89%
	製造会社計(注)	964	99%	75	92%
国内販売会社	西日本長瀬	83	116%	5	180%
	ナガセプラスチック	325	96%	5	108%
	ナガセケミカル	158	103%	2	133%
	国内販売会社計(注)	827	98%	18	124%
海外販売会社	上海華長貿易有限公司	359	107%	9	103%
	広州長瀬貿易有限公司	300	107%	9	102%
	ナガセタイランド	357	101%	8	80%
	海外販売会社計(注)	3,566	102%	73	118%

※注) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

## 連結貸借対照表

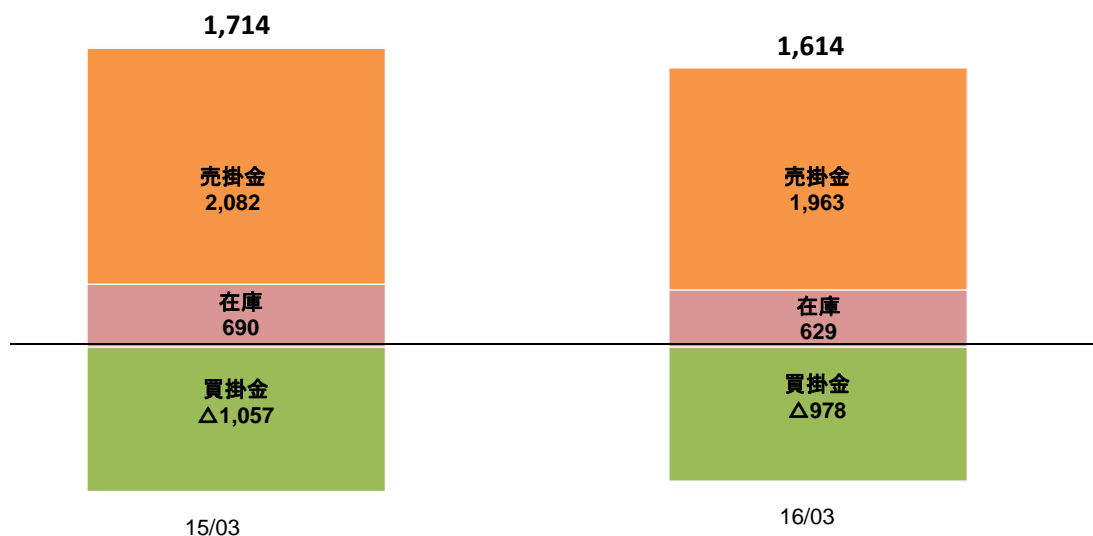
- 売掛金および棚卸資産の圧縮等により、総資産は344億円減少
- 自己資本比率が2.0ポイント上昇し 53.5 %へ(前期末時点51.5%)

資産				負債及び純資産			
	15/03	16/03	増減額		15/03	16/03	増減額
<b>流動資産</b>	3,298	3,123	△175	<b>流動負債</b>	1,764	1,561	△203
現金・預金	405	432	+27	支払手形・買掛金	1,057	978	△79
受取手形・売掛金	2,082	1,963	△118	短期借入金 (1年内返済予定長期借入金含む)	377	341	△36
棚卸資産	690	629	△60	1年内償還予定の社債	100	—	△100
その他	120	97	△22	その他	229	241	+12
<b>固定資産</b>	2,166	1,997	△169	<b>固定負債</b>	826	768	△57
有形固定資産	667	664	△2	長期借入金	303	231	△72
無形固定資産	488	445	△43	社債	200	300	+100
投資・その他の資産合計	1,010	887	△123	退職給付に係る負債	108	140	+32
投資有価証券	926	813	△112	その他(繰延税金負債等)	214	96	△118
その他	84	74	△10	<b>負債合計</b>	2,590	2,329	△260
				<b>純資産</b>	2,875	2,791	△83
				株主資本	2,263	2,346	+83
				その他の包括利益累計額	550	393	△157
				其他有価証券評価差額金	449	370	△78
				為替換算調整勘定	94	44	△50
				其他	6	△21	△28
				非支配株主持分	61	51	△9
<b>資産合計</b>	5,465	5,120	△344	<b>負債及び純資産合計</b>	5,465	5,120	△344

## 運転資金の増減

- 単体では立替の短い海外売上の比率が低下したことにより、立替の回転期間は悪化したものの、在庫モニタリング強化による在庫の回転期間の改善等により運転資金は10億円改善
- その他の連結子会社では、為替変動の影響が大きいものの、東南アジアや北米での在庫削減もあり、運転資金は90億円改善

### 運転資金 (億円)



■主に有形固定資産の取得による投資支出や配当金の支払い等による財務支出等があったものの、利益計上および運転資金の改善によるキャッシュ創出により現金および現金同等物は23億円増加

## キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

	16/03	主な内訳	15/03
営業活動によるキャッシュ・フロー	+293	税前利益+152 減価償却費・のれん償却費+111 運転資金+61 法人税等▲45	+154
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲126	有形固定資産の取得による支出▲89 無形固定資産の取得による支出▲18 投資有価証券の取得による支出▲21	▲77
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲128	短期・長期借入金収支▲82 配当金の支払▲39	▲32
現金および現金同等物に係る換算差額	▲15		+21
現金および現金同等物の増加額(▲減少額)	+23		+66
現金および現金同等物の期首残高	405	日本223、グレーターチャイナ111、アセアン46、欧州17、北米6	338
その他の変更による影響額	—		+0
現金および現金同等物の当期末残高	429	日本239、グレーターチャイナ124、アセアン42、欧州18、北米4	405

## 2017年3月期 業績見通し

■売上高は前年並みとなるものの、退職給付会計における数理計算上の差異31億円を費用計上することにより、営業利益以下は減益の見通し

(単位:億円)

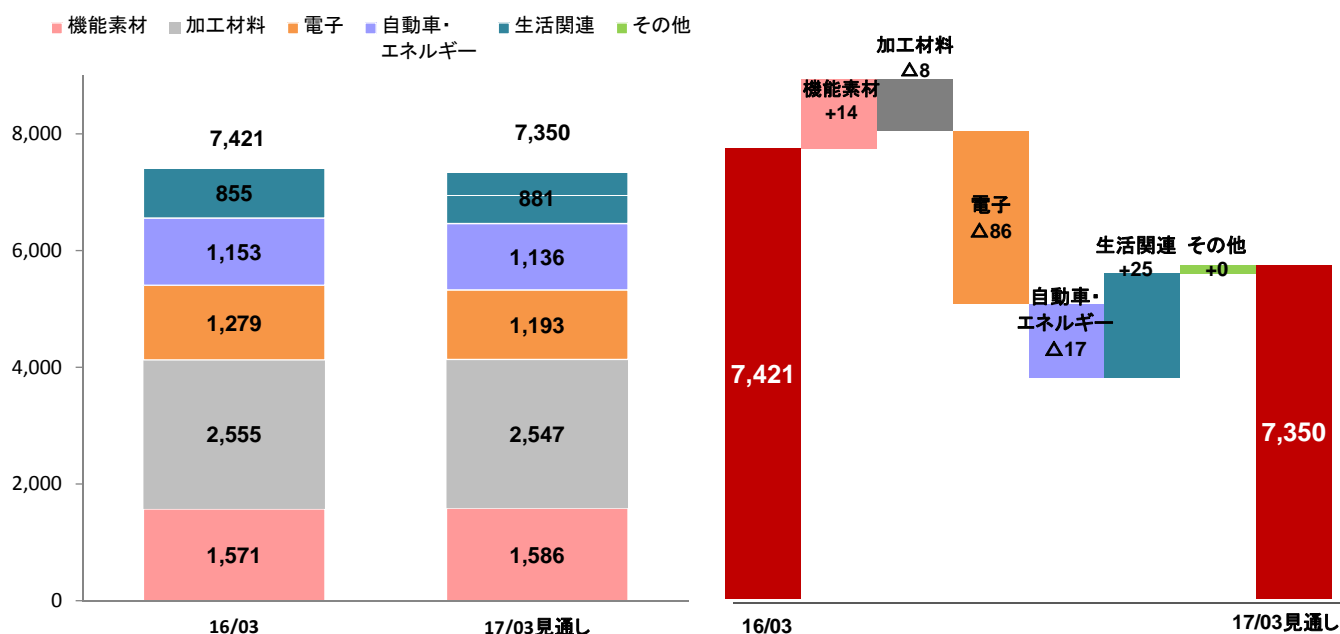
	16/03実績	17/03見通し	増減額	前期比
売上高	7,421	7,350	△71	99%
売上総利益	916	923	+6	101%
<利益率>	12.4%	12.6%	+0.2%	-
販売費及び一般管理費	736	778	+41	106%
営業利益	180	145	△35	80%
経常利益	183	160	△23	87%
親会社株主に帰属する当期純利益	123	95	△28	77%
US\$レート (期中平均)	@120.1	@108	@12.1円高	-

## セグメント別売上高見通し

■電子セグメントは、一部タッチパネルに関連する低利益ビジネスが減少し、全体で減収  
 ■生活関連セグメントは、トレハ®等の林原関連や抗がん剤ビジネスが好調に推移し、全体で増収

セグメント別 売上高(億円)

セグメント別 売上高増減(億円)

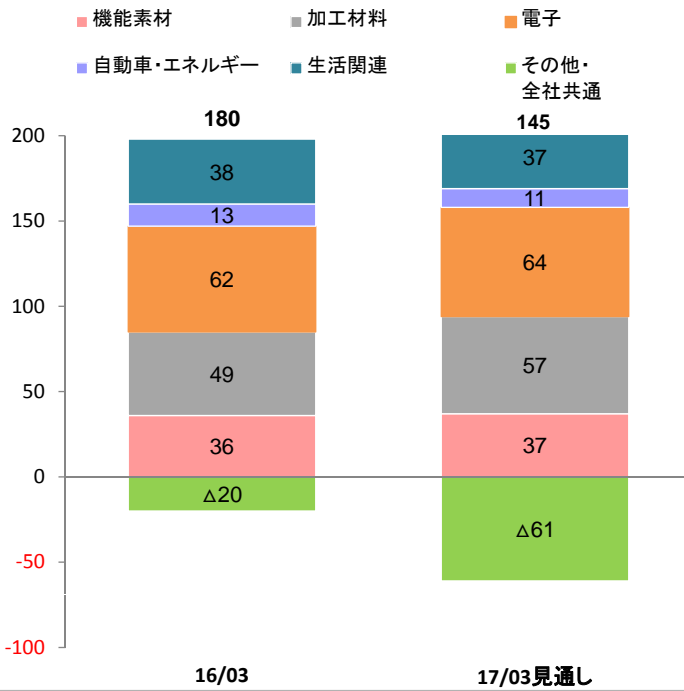




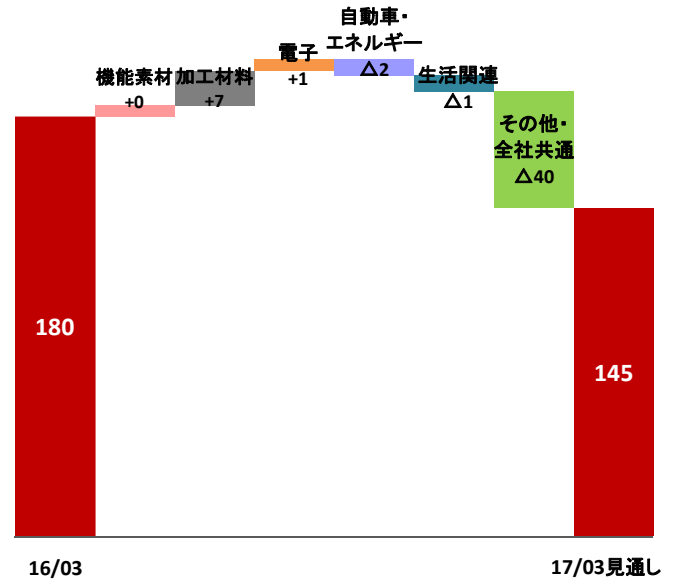
# セグメント別営業利益見通し

■加工材料セグメントは、一部製造子会社における損益改善に伴い、増益  
 ■主に金利の低下を受け、割引率の見直しを行い、退職給付債務の数理計算上の差異が発生(▲31億円)したことにより退職給付費用が増加(前期は+9億円であった為、前期比▲40億円)

セグメント別 営業利益(億円)

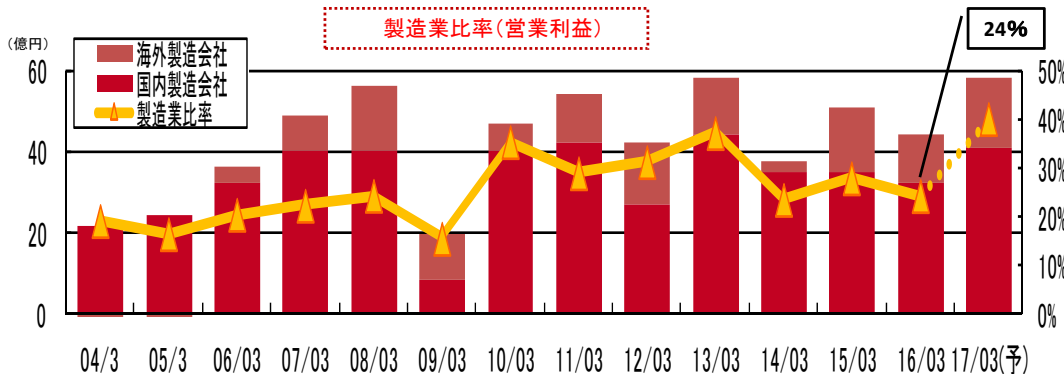
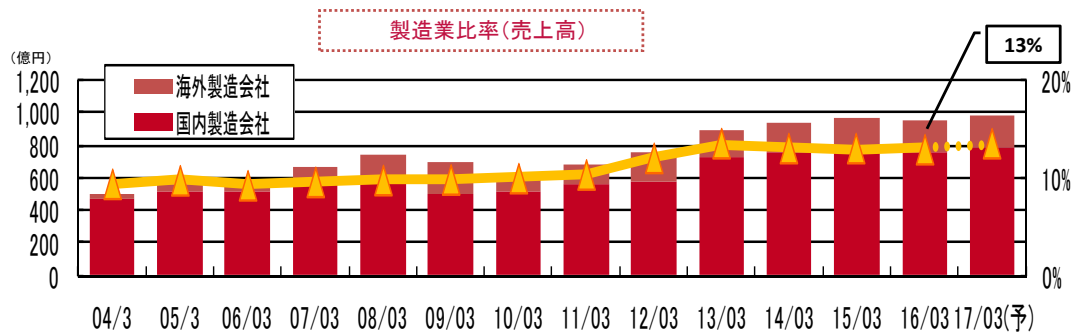


セグメント別 営業利益増減(億円)



# 投資実績および製造業比率

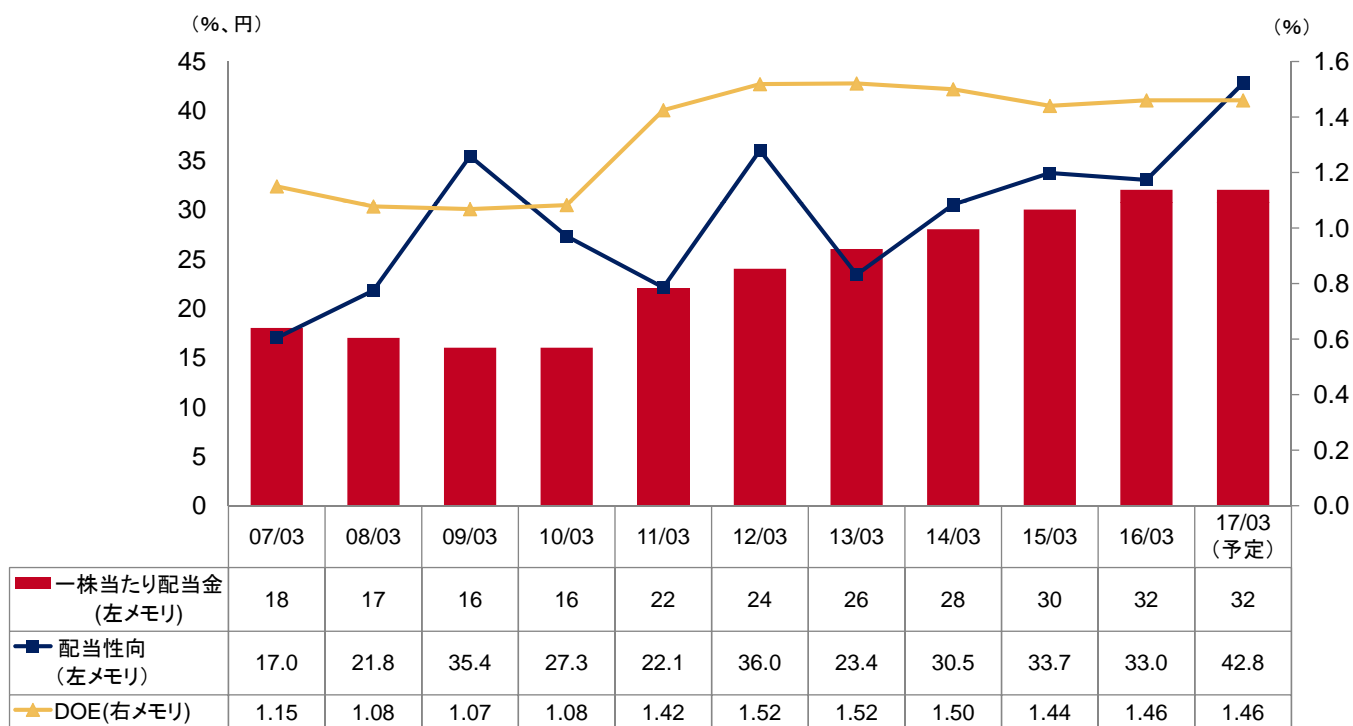
■製造機能、研究開発機能、技術・情報力、グローバルネットワークを強化する投融資の実行により、独自性・優位性を創出し、事業の質の向上と企業価値の向上を図っております。



投資(16/03期)

実績  
137億円

■来期は、中間配当金16円、期末配当金16円の年間配当金32円を予定



※16/03 期の期末配当金は、2016年6月開催予定の株主総会にて付議予定

# 新中期経営計画「**ACE-2020**」

Accountability（主体性）・ Commitment（必達）・ Efficiency（効率性）

## 経営理念とNAGASEビジョン



### 経営理念

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める

### NAGASEビジョン

社員の一人ひとりが、日々の活動で「見つけ、育み、広げる」を体現することにより、「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献する

※NAGASE ビジョンはこれまでの「目指す姿」に置き換わるもので、グループに関わる全ての人に対して約束すること

2032年までの目標

現行比3倍の利益水準を常態化

成長に向けたチャレンジ

- ・注力領域への経営資源の投下と日本に依存したビジネス運営からの脱却を通じ、これまでの事業の延長だけでは成し得ない飛躍的な成長を実現する
- ・2,000億円程度の成長投資枠を設け長期目標の達成に向けた手段として、大型投資も含めて検討する

成長を支える経営基盤の強化

- ・成長に向けたチャレンジを成功に導くために、事業の拡大とグローバル化に寄与する経営基盤を構築する

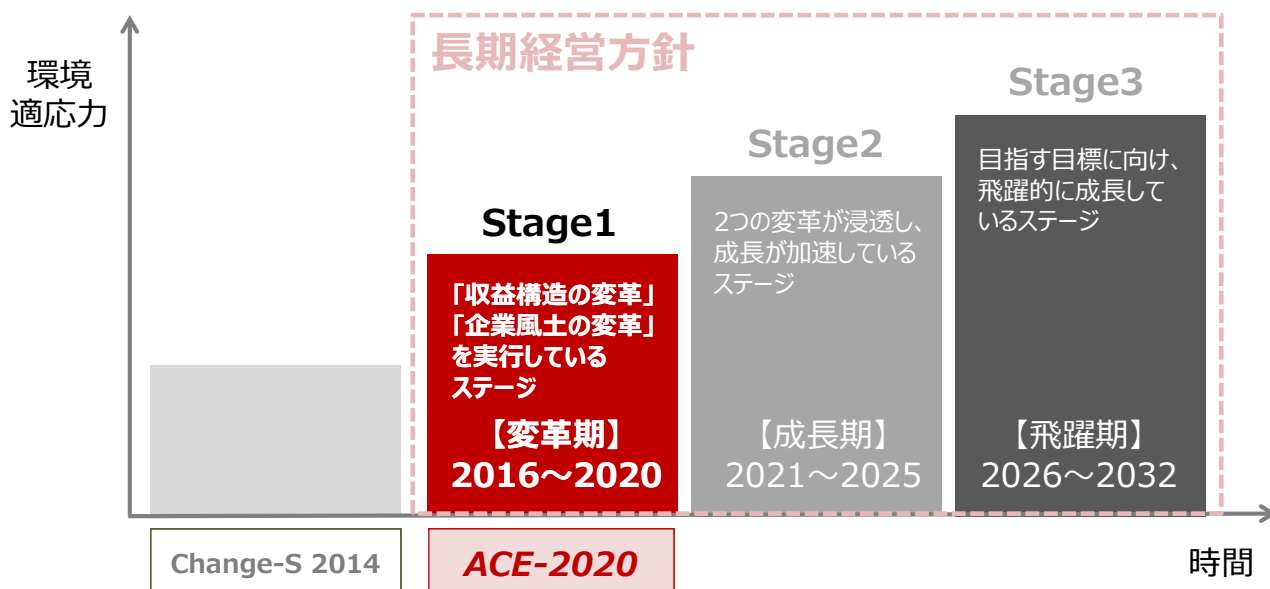
- ・成長投資の拡大
- ・オーガニック成長の加速
- ・グローバルビジネスの拡大

- ・グローバルガバナンスの再構築
- ・人財マネジメントの多様性拡大
- ・安心/安全の提供
- ・コミュニケーションインフラの整備

ACE-2020 位置づけ

長期経営方針の最終年度にあたる2032年までに、我々が目指す目標\*を実現するために、この17年間で3つの Stage1に分け、Stage1として中期経営計画 ACE-2020をスタートします。

\* 目指す目標「現行比3倍の利益水準を常態化」



## 商社からビジネスをデザインするNAGASEへ

商社中心の考え方から、商社をグループの機能のひとつと考え、グループ一丸となって世界へ新たな価値を創造・提供するNAGASEを目指します



【6つの機能】

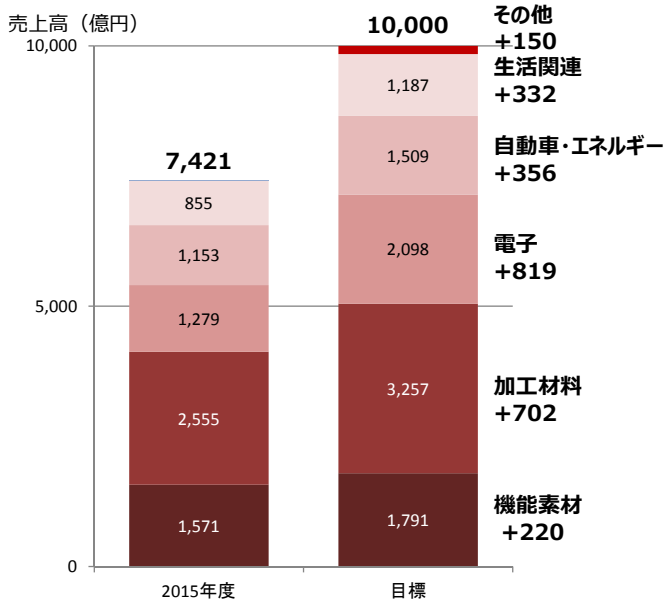
グループの持つ機能を最大限活用し、定量・定性目標を必達

収益構造の変革	企業風土の変革
<p><b>ポートフォリオの最適化</b></p> <p>事業の仕分けと領域にあった戦略の実行</p> <p>資産入替と資源の再配分</p> <p>全社規模の投資加速</p>	<p><b>マインドセットの徹底</b></p> <p>主体性と責任感の醸成</p> <p>トップメッセージの共有化</p> <p>モニタリングとPDCAの徹底</p>
<p><b>収益基盤の拡大・強化</b></p> <p>グローバル展開の加速 "G6000"</p> <p>製造業の収益力向上</p>	<p><b>経営基盤の強化</b></p> <p>効率性の追求</p> <p>人財育成</p>

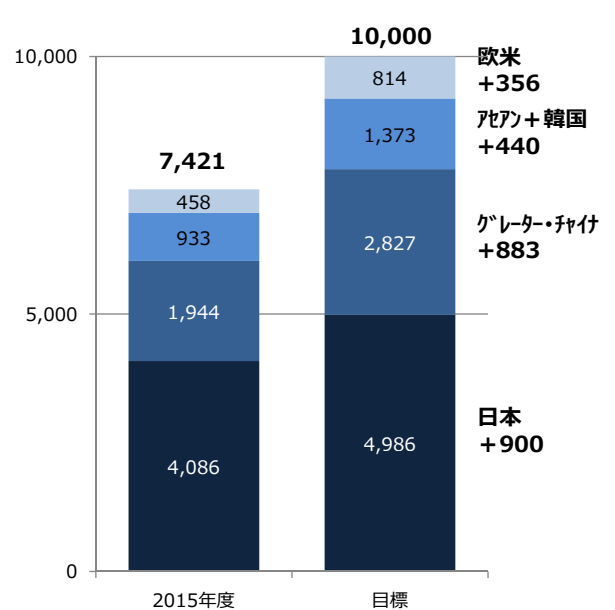
## 連結売上高

### 1兆円以上を早期に常態化

セグメント別売上高（億円）



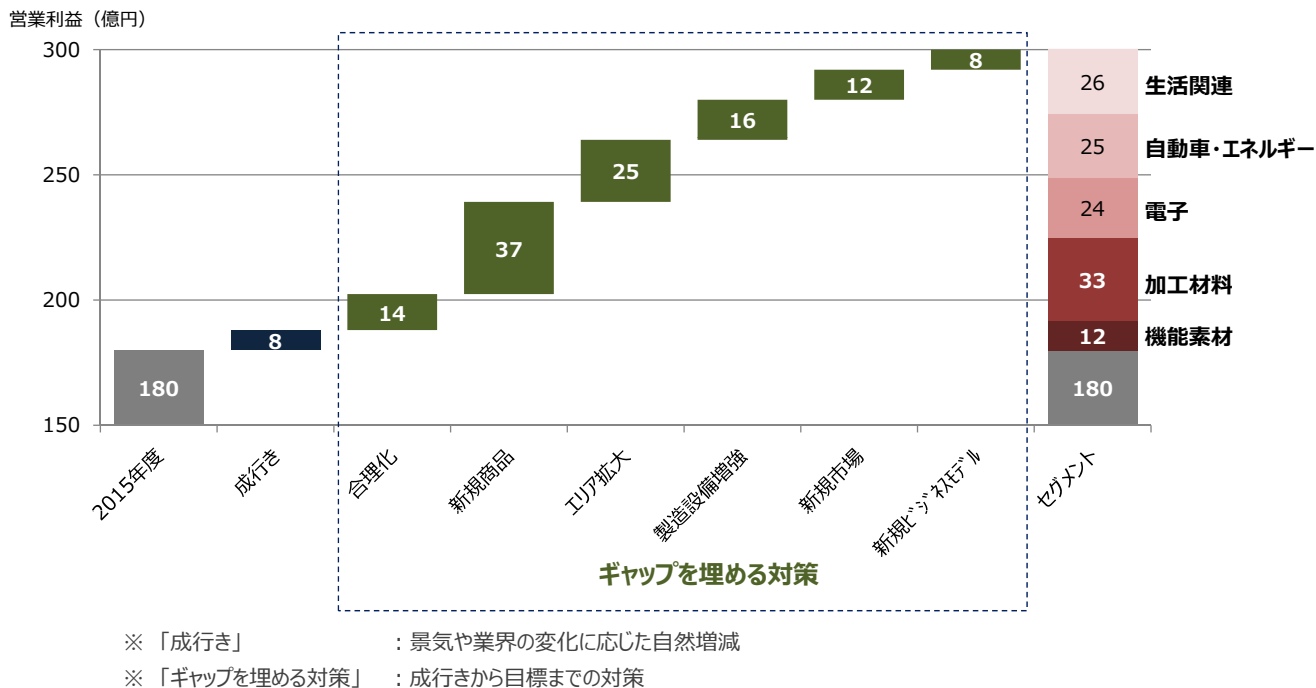
\*所在地別売上高（億円）



\*仕向地別の売上高とは異なります

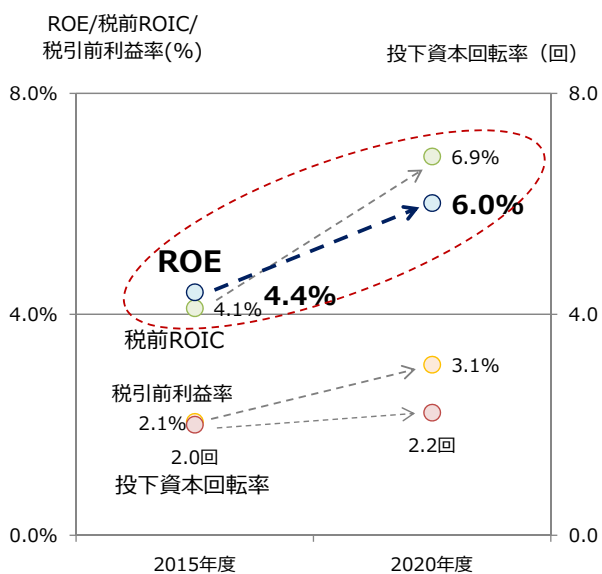
## 連結営業利益

### 300億円以上を早期に常態化



## ROE

### 6%以上を早期に常態化



#### ROE達成の目安

税引前利益率	1ポイント向上	2.1%→3.1%
投下資本回転率	10%改善	2.0回→2.2回

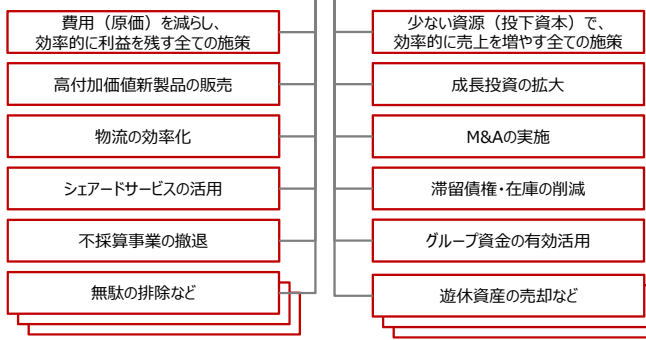
$$ROE = \text{税引後利益} \div \text{自己資本}$$

$$\text{税前ROIC} = \text{税引前利益} \div (\text{自己資本} + \text{有利子負債})$$

$$ROIC = \frac{\text{税引前利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{自己資本} + \text{有利子負債}}$$

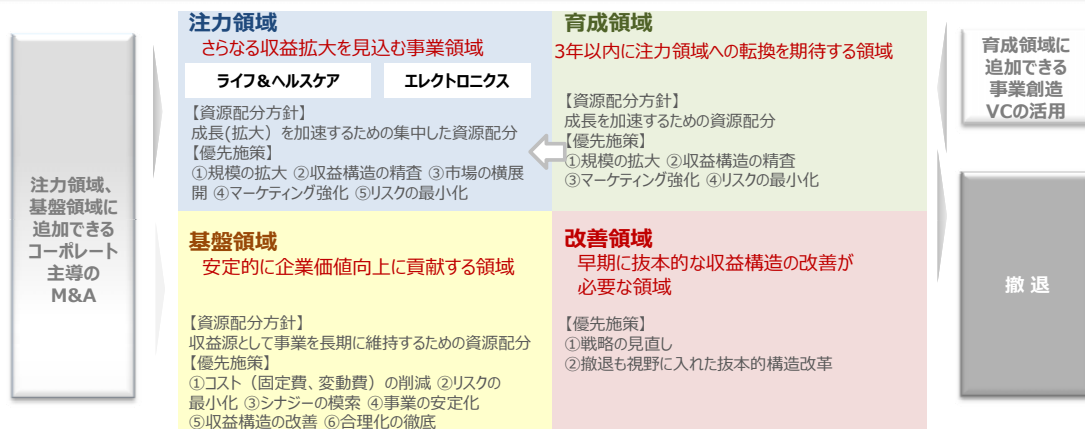
税引前利益率

投下資本回転率



## 事業の仕分けと領域にあった戦略の実行

経営資源の最大効率化を進めるために、事業を4つの領域  
「育成」「注力」「基盤」「改善」に仕分けし事業を拡大する



## 資産入替と資源の再配分

不採算事業の整理を加速し、再配分可能な経営資源の確保と  
積極的な成長投資を行う（資産の入替）

NPV(事業が将来生み出すキャッシュ・フローの現在価値)の活用と、ハードルレート・IRRの比較により、成長事業と不採算事業のグルーピングを行い資産の入替を加速する

## グローバル展開の加速 “G6000”

海外の国や地域ごとに市場戦略を主体的に展開し  
売上規模の拡大により、グループのプレゼンス向上を進める

海外グループ売上総額 \*6,000億円を目指す

- 事業拡大を推進するため、各地域戦略にあった成長投資（M&Aなど）の探索と実行、ビジネスモデルの立上げを加速（特に北米地域へ注力）
- アウト・アウトの有機的連携を強めた新たな市場開拓の推進

## 製造業の収益力向上

グループ製造会社は長期的戦略で、主体的に経営を行い、  
製造・開発・営業が合意したシナリオに基づいた新たな事業を創造する

短期的な営業利益ではなく、中期的なフリーキャッシュ・フローの増加を優先し、将来の注力事業を育成する  
収益構造の精査と効率的コストダウンによる経営の安定化（損益分岐点の改善）を推し進める

- 新製品の開発・上市、新規市場の開拓、高付加価値分野の深耕（トレハロースの海外市場獲得、エポキシ樹脂シート材料の設備投資、コーティング用導電材料の開発深化 など）
- 海外市場をフォーカスしたシナリオづくりと人材育成（海外マーケティング、海外生産）の強化

\*単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません

主体性・責任感・危機意識の醸成
中計を主体的に達成するものと位置づけ 責任感を持って行動する
トップメッセージの共有化
コミュニケーションインフラを整備し、グループ全員が、 一丸となって同じゴールを目指す
モニタリングとPDCAの徹底
設定したKGI・KPIを達成するために、ダッシュボードをフルに活用、 モニタリングを徹底し、事業のPDCAサイクルを回す
効率性の追求
無駄の排除、組織・機能の効率化を強く推し進め 連結売上高販管費率を「0.5%」改善する
人財育成
グループの競争力向上と持続的発展のため、 人財育成を強く推し進める

まとめ

KGI (Key Goal Indicator) : 目標とする指標

KGI	2015年度	2020年度
連結売上高	7,421億円	1兆円 以上
連結営業利益	180億円	300億円 以上
ROE	4.4%	6.0% 以上

KPI (Key Performance Indicator) : KGI達成のための因数指標

変革/戦略	施策	KPI (指標)	2015年度	2020年度
収益構造 変革の指標	注力ビジネス拡大 (ポートフォリオ最適化)	*注力領域 営業利益額	103億円	169億円
		注力領域成長投資分配率	未設定	35%以上
	グローバル展開の加速 (収益基盤の拡大強化)	*海外グループ会社売上高	4,247億円	6,000億円
		米州売上成長率	未設定	170%
企業風土 変革の指標	製造業の収益力向上 (収益基盤の拡大強化)	*グループ製造業営業利益額	83億円	144億円
		*損益分岐点売上高比率	82%	73%
財務戦略 指標	効率性の追求 (経営基盤の強化)	グループ連結売上高販管費比率	9.9%	9.4%
	投資	成長投資額	未設定	** 1,000億円
	強固な財務体質	格付け (R&I)	「A」	「A」以上

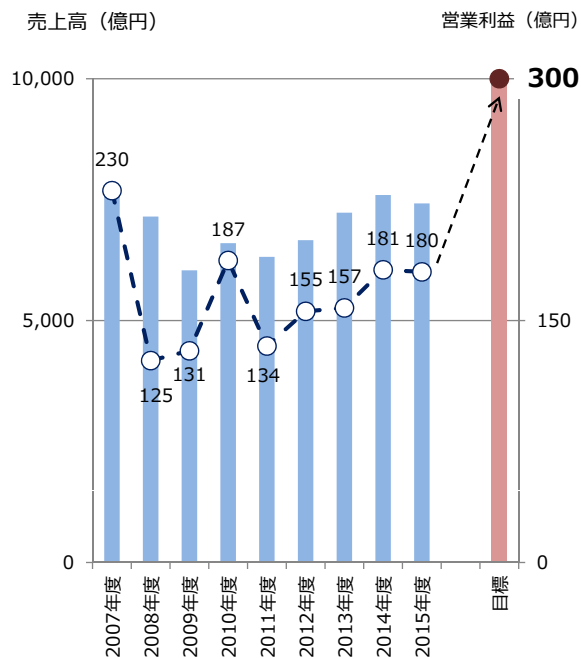
\*単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません

\*\*中計期間中の合計額



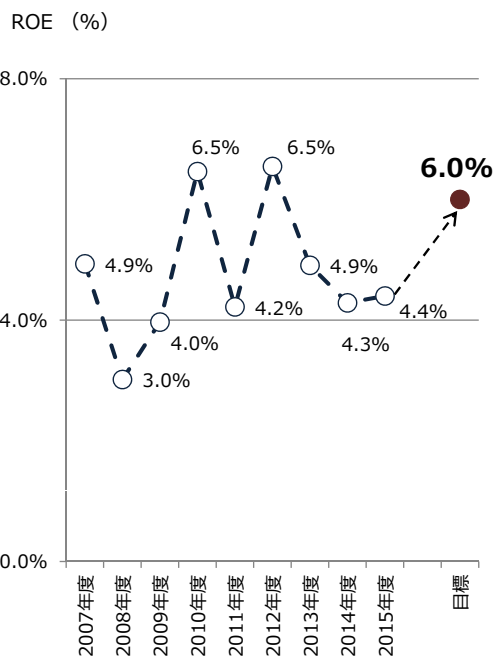
売上高/営業利益

1兆円/300億以上



ROE

6%以上



(参考資料)セグメント別概況

## <所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	16/03期		17/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	1,501	92%	1,524	102%
	海外	465	103%	455	98%
	連結調整	▲395	-	▲393	-
	合計	1,571	93%	1,586	101%
営業利益	国内	27	82%	29	106%
	海外	10	91%	8	84%
	連結調整	▲0	-	▲0	-
	合計	36	86%	37	101%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

## 2016年3月期 実績

### 売上高

1,571億円(93%)

- ◆機能化学品事業は、中国や米州において売上は増加したが、国内においては自動車生産台数の減少や住宅関連塗料の需要低迷を受けて塗料原料およびウレタン原料等の売上が減少し、減収
- ◆スペシャリティケミカル事業は、樹脂添加剤は堅調に推移したものの、半導体関連等の電子業界向けケミカルや加工油剤が低調に推移し減収

### 営業利益

36億円(86%)

- ◆子会社の移転・増設に係る費用が発生したこと等により減益

## 2017年3月期 見通し

- ◇海外が低調に推移するものの、国内製造子会社が復調し、全体で増収増益



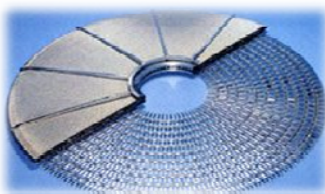
### 機能化学品事業部

**塗料原料:**  
自動車のボディ等に使用されています。



### 機能化学品事業部

**ウレタン原料:**  
高い密着性と弾性を持ち、カーシートのクッション等に使用されています。



### スペシャリティケミカル事業部

**デナフィルター®:**  
液晶パネル等のフィルム製造時の異物除去に使用されています。  
子会社・長瀬フィルター(株)で製造を行っています。

## <所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	16/03期		17/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	1,550	96%	1,609	104%
	海外	1,617	103%	1,567	97%
	連結調整	▲613	-	▲629	-
	合計	2,555	101%	2,547	100%
営業利益	国内	24	101%	30	126%
	海外	24	101%	25	107%
	連結調整	+1	-	+2	-
	合計	49	104%	57	114%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

## 2016年3月期 実績

**売上高** 2,555億円(101%)

◆カラー&プロセッシング事業は、合成樹脂の売上は増加したが、顔料・添加剤、情報印刷関連材料、光学反射防止シート、液晶テレビ反射板用材料および導電性材料等の売上が減少し、減収

◆OA業界等への合成樹脂販売を中心とする事業は、国内での売上は減少したが、北東アジアおよび東南アジアでの売上が増加し、増収

**営業利益** 49億円(104%)

◆売上が増加したこと等により増益

## 2017年3月期 見通し

◇売上は横ばいとなるものの、  
製造子会社の損益改善等により増益



### カラー&プロセッシング 事業部

**カラーフォーマー:**  
子会社・福山田化学工業(株)等にて製造するインク原料で、領収書や切符等の感熱紙に使用されています。



### カラー&プロセッシング 事業部

**導電性材料(デナロン):**子会社・ナガセケムテックス(株)にて製造しているフィルム等に使用される帯電防止材料です。



### カラー&プロセッシング 事業部

**光学反射防止フィルム:**  
スマートフォンやカーナビ等で使用されている光学反射防止シートです。



### カラー&プロセッシング 事業部

**コポリエステル樹脂(トライタン™):**  
耐熱性を100℃以上にまで高めたコポリエステル樹脂。ガラスライクの容器などに使用されています。



### ポリマーグローバル アカウント事業部

**エンジニアリング・プラスチック:**  
OA機器等に使用されていません。

## <所在地別売上高・営業利益>

	(億円)				
	16/03期		17/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	1,259	89%	1,256	100%
	海外	731	90%	637	87%
	連結調整	▲711	-	▲700	-
	合計	1,279	85%	1,193	93%
営業利益	国内	38	103%	38	99%
	海外	27	142%	27	100%
	連結調整	▲3	-	▲1	-
	合計	62	112%	64	102%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん償却含む)

## 2016年3月期 実績

**売上高** 1,279億円(85%)

- ◆電子化学品事業は、エポキシ樹脂関連の売上が増加し、増収
- ◆電子資材事業は、スマートフォン市場の低迷の影響等により液晶関連部材の売上が減少し、減収

**営業利益** 62億円(112%)

- ◆前連結会計年度に台湾子会社において貸倒引当金を計上した影響等により、増益

## 2017年3月期 見通し

- ◇減収となるものの、中国におけるガラス薄型加工ビジネスが立ち上がり、増益



### 電子化学品事業部

#### 半導体・液晶パネル製造用薬液:

子会社・ナガセケムテックス(株)にて製造しており、半導体や液晶パネル製造時に使用されています。



### 電子化学品事業部

#### エポキシ樹脂:

子会社・ナガセケムテックス(株)にて製造しており、半導体封止用、建築・建材から電機・電子部品・ディスプレイ・自動車等の車両・風力発電など各用途に応じた接着剤として、多種多様な産業分野で利用されています。



### 電子資材事業部

#### 液晶関連部材:

スマホ・タブレットPC業界向けに表示デバイス周辺部材やタッチパネル部材等を販売しています。

## <所在地別売上高・営業利益>

	(億円)				
	16/03期		17/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	546	99%	564	103%
	海外	828	109%	781	94%
	連結調整	▲221	-	▲209	-
	合計	1,153	105%	1,136	98%
営業利益	国内	▲9	-	▲8	93%
	海外	21	95%	19	90%
	連結調整	+1	-	+0	-
	合計	13	58%	11	85%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

## 2016年3月期 実績

**売上高** 1,153億円(105%)

◆自動車関連事業は、国内では自動車生産台数の減少の影響を受けたものの、特定の車種に関連した商材の売上が伸長し、売上は前年並みで、海外においては米州、中国および東南アジアでの販売が好調に推移し、増収

**営業利益** 13億円(58%)

◆国内新規ビジネス立ち上げ時の費用負担発生等により減益

## 2017年3月期 見通し

◇円高並びにナフサ価格の下落等を受け、減収減益



### 自動車材料事業部

樹脂(ポリカーボネート):ヘッドライト等に使用されます。  
樹脂(PP):バンパー等に使用されています。



### 自動車材料事業部

樹脂(PCABS等)、加飾フィルム:インパネ・ダッシュボード周りに使用されています。



### 自動車材料事業部

フロアボード製造:関連会社で製造を行っています。

## <所在地別売上高・営業利益>

	(億円)				
	16/03期		17/03期		
	通期実績	前期比	通期見直し	前期比	
売上高	国内	1,022	108%	1,063	104%
	海外	127	102%	121	95%
	連結調整	▲294	-	▲303	-
	合計	855	112%	881	103%
営業利益	国内	66	107%	65	97%
	海外	4	145%	2	58%
	連結調整	▲32	-	▲30	-
	合計	38	122%	37	96%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。  
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産償却含む)

## 2016年3月期 実績

### 売上高

**855億円(112%)**

- ◆ライフ&ヘルスケア製品事業は、食品素材分野において国内・海外ともにトレハ®等が、スキンケア・トイレタリー分野においてAA2G®や他原料販売が増加したこと等により増収
- ◆ビューティケア製品事業は、下期より新商品の販売が伸長したが、従来商品の販売が低調であったことから減収

### 営業利益

**38億円(122%)**

- ◆売上が増加したこと等により増益

## 2017年3月期 見直し

- ◇スキンケア・トイレタリー業界向け原料販売が減少するものの、林原関連(トレハ®, AA2G®等)の販売や抗がん剤ビジネスが好調に推移し増収となるが、成長に向けた体制強化に伴う経費増等により減益

# 生活関連セグメント



### ライフ&ヘルスケア製品事業部

#### トレハ®:

子会社・(株)林原で製造しており、冷凍や乾燥による品質劣化を抑制する等の機能を持つ機能性糖質。和洋菓子をはじめ様々な加工食品に幅広く使用される甘味料です。



### ライフ&ヘルスケア製品事業部

#### AA2G®:

子会社・(株)林原で製造しており、不安定なビタミンCにブドウ糖を結合させて安定化した安定型ビタミンC。化粧品に配合しても安定で着色しにくい特性があり、生体内でビタミンCの生理活性を発揮することから、国内外の美白化粧品に配合されています。



### ライフ&ヘルスケア製品事業部

#### 医薬・医療分野:

原薬・中間体や医療原料の販売、子会社・ナガセ医薬品(株)では抗がん剤製造を行っています。



### ビューティケア製品事業部

#### 化粧品原料:

長瀬産業(株)では化粧品原料の販売、子会社・(株)ナガセビューティケアでは化粧品・健康食品の製造・販売を行っています。



<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2016年5月27日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。